

烈火のごとく燃える国を求めて。

平成22年度 秋季特別展

九州と近畿

邪馬台国

平成22年

10月9日(木) → 12月12日(日)

◎開館時間／午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで) ◎休館日／毎週月曜日、10月12日(火) ※10月11日(月祝)は開館

◎入館料／一般600円、65歳以上・高大生400円

※中学生以下、障がい者手帳をお持ちのかたとその介助者1名は無料 ※20名様以上の団体は2割引 ※11月13日(土)・14日(日)は「関西文化の日」で入館無料

<主催>大阪府立弥生文化博物館、九州国立博物館、朝日新聞社 <協賛>株式会社国際交流サービス

<後援>和泉市、和泉市教育委員会、泉大津市、泉大津市教育委員会

大阪府立弥生文化博物館
Museum of Yayoi Culture

〒594-0083 大阪府和泉市池上町4丁目8-27 TEL.0725-46-2162
<http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/>

Y A M A T A I K O K U

邪馬台国

九州と近畿

倭国の女王卑弥呼が都とした邪馬台国。三世紀の日本列島を記したとされる中国の史書『魏志倭人伝』に登場する邪馬台国は、どこにあるのでしょうか。弥生時代は、稲作が始まり、稲穂の蓄えができるようになったことから、多くの蓄えを持つ人と持たない人がうまれた時代です。そして、蓄えをはじめとする力を持つ人は、権力のシンボルとしての青銅器を持ち、そのなかから地域の王がうまれました。

北部九州に位置する末盧国・伊都国・奴国では、早くから地域の王が出現し、弥生時代の終わりには、伊都国の平原遺跡のような多くの鏡・玉・剣をもつ弥生王墓がつくられます。つづく古墳時代前期には、近畿地方の三輪山麓周辺に前方後円墳がつくられはじめ、巨大な箸墓古墳や、多くの鏡を副葬する黒塚古墳などが姿をあらわします。

今回は九州と近畿を舞台に、最新の発掘成果にもとづいて、弥生王墓の出現から前方後円墳の成立にいたる、邪馬台国をとりまく世界をご紹介します。

『魏志倭人伝』は、倭国が乱れるなか、各地の王に共立されて、女王卑弥呼が誕生したと伝えます。弥生時代の王たち、そして古墳時代の扉を開いた卑弥呼が生きた激動の時代をご覧ください。



<内行花文八角鏡>
福岡県平原遺跡 国宝 文化庁



<銅鏡・勾玉・管玉>京都市芝ヶ原古墳 国指定重要文化財 福岡市教育委員会



<石鏡・勾玉・管玉・ガラス玉>
奈良県下池山古墳 奈良県指定文化財 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館



<銅戈・銅矛・銅剣・多鈕細文鏡など>
福岡県吉武高木遺跡 国指定重要文化財 文化庁



<朝鮮半島系の土器>
福岡県西新町遺跡 福岡県教育委員会



<環頭大刀>
福岡県藤崎遺跡 福岡市埋蔵文化財センター

特別講演会
第1回 10月9日(土)『中平銘鉄刀と卑弥呼の時代』大阪府立弥生文化博物館館長 金関 恕
第2回 12月12日(日)『邪馬台国への道』奈良大学名誉教授 水野正好
◎場所:大阪府立弥生文化博物館1階ホール ◎時間:午後2~4時 ◎定員:170名
(当日先着順 午後0時30分から整理券配布・午後1時30分から受付)

考古学セミナー
第1回 10月16日(土)『奴国と倭国』西南学院大学教授 高倉洋彰
第2回 10月30日(土)『魏志東夷伝の考古学』徳島大学教授 東 潮
第3回 11月6日(土)『九州の邪馬台国事情』九州国立博物館 坂元雄紀
第4回 11月28日(日)『東アジアの巨大墳と卑弥呼の「大家」』奈良県立橿原考古学研究所所長 菅谷文則
◎場所:大阪府立弥生文化博物館1階ホール ◎時間:午後2~4時 ◎定員:170名
(当日先着順 午後0時30分から整理券配布・午後1時30分から受付)

学芸員による展示解説
10月9日(土)、16日(土)、30日(土)、11月6日(土)、14日(日)、28日(日)、12月12日(日)
◎時間:午前11時~

ワークショップ
『鏡を作ろう』11月13日(土)・14日(日)
◎時間:午前10時~午後3時(時間内随時受付・所要時間約30分) ◎参加費:300円

関連企画
『北部九州 史跡と考古の旅』12月1日(水)~3日(金)
『香岐・対馬 史跡と考古の旅』2011年2月15日(火)~17日(木)
学芸員が同行し、各地の遺跡を訪ねます。【お問合せ】株式会社国際交流サービス TEL 06-6263-7855



大阪府立弥生文化博物館
Museum of Yayoi Culture
〒594-0083 大阪府和泉市池上町4丁目8-27 TEL:0725-46-2162
http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/